介護の仕事研究室

介護で働く魅力発信BOOK

暮らしをつくる

福祉がこれからのまちづくりの中心に

アナタとワタシのフクシのアシタ

FACE to FUKUSHI

はじめに

introduction

2040年には、1.5人の現役世代が1人の高齢者を支える時代に。

暮らしのなかで、介護の仕事がどんどん“あたりまえ”になっていくのに、

「たいへんそう」とか「休みがなさそう」といった曖昧なイメージがまだまだ根付いています。

これからの時代に、避けては通れない大切な仕事だからこそ、誤解をほどいて本当の魅力を伝えたい。

そんな想いから「介護の仕事研究室」と銘打ち、さまざまなアプローチでオンラインセミナーを行ってきました。

この冊子は、これらの活動から見えてきた介護の魅力を凝縮したレポートです。

この冊子を手にしたあなたが、将来介護に関わるきっかけになれたら、こんなに嬉しいことはありません。

contents

03 はじめに

04 拝啓10年後、まちづくりの主役になるわたしたちへ

06 介護の仕事研究室レポート

2040年の社会って、介護って、どうなっているのだろう？

介護のリーダーは、日本のリーダーになる。

高齢者の旅をしたい想いに介護でこたえる

医療から介護へ　その人らしさを支える介護の魅力

10 若手職員の現場の声

11 介護の誤解

12 介護職のQ&A

13 協力法人紹介

14 さいごに

拝啓

10年後、まちづくりの主役になるわたしたちへ

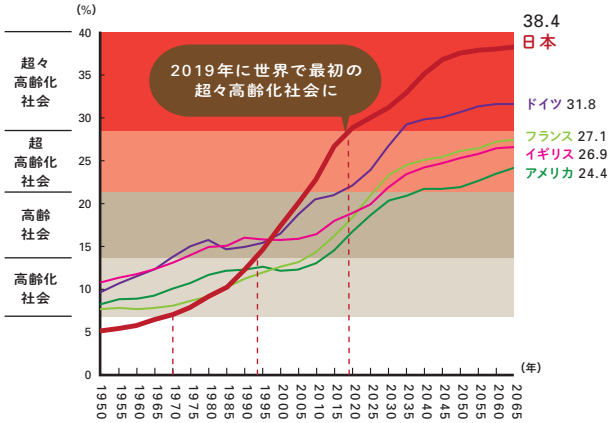
わたしたちの住む日本は、世界初の「超々高齢社会」になった。2025年には、後期高齢者が2000万人を超える社会へ突入する。そして2040年。1.5人の現役世代が1人の高齢者を支える時代は、すぐ目の前まできてる。老老介護も、もう限界。これからさらに、85歳以上の要介護の高齢者が増え続け、65歳から74歳までの前期高齢者が減り続ける。日本はすっかり「課題先進国」なんだ。いまこそ、新しい介護のかたちをつくるとき。黙って見ているわけにはいかない。さあ、介護の反撃だ。「課題先進国」のわたしたちにしかできないことが、ひとつだけある。それは、「課題解決先進国」になれるということ。そのための先駆的な挑戦が、これからの介護の領域ではいくつも求められるだろう。もはや人の力だけでは、膨れ上がる需要に対応は不可能。ならば、AIやテクノロジーを、介護の力に変えていく。当事者、家族、職員みんなが疲弊しない、持続するマネジメント力も不可欠。異業種とも協力しながら、絶対に介護を止めてはならない。人口が変わり、ライフスタイルも変わるのに、従来のやりかたにあてはめるほうが不自然だ。前例のない時代は、もうはじまっている。介護の仕事は、目の前の人の暮らしをつくること。暮らしをつくるということは、まちのありかたを考えること。一人の幸せを、地域全体で支えるまちづくりの中心に、10年後のわたしたちは立っているだろう。前例のない、大きなやりがいを感じながら。

KEYWORD

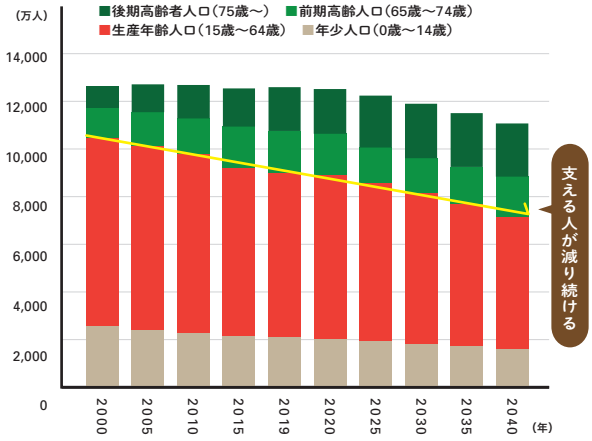
EXTRA SUPER AGING SOCIETY

世界初の超々高齢社会

65歳以上の高齢者比率が21%を超える「超高齢社会」。2019年9月、日本は遂に28%を超え、世界初の「超々高齢社会」へ。2025年には後期高齢者が2000万人を超える社会において、介護の果たす役割は計り知れません。



※資料1



※資料2

SOCIAL CHALLENGES

世界が注目する社会的課題

1.5人の現役世代が1人の高齢者を支える2040年。今もなお、世界に例をみないほどの速さで高齢化は進んでいます。超々高齢社会に対応した社会システムをいかに構築するのか、わたしたちの動向に世界が注目しています。

IDEA & TECHNOLOGY

アイデアとテクノロジー

人の力だけでなく、AIやロボットなど最先端のテクノロジーの導入が不可欠。常識にとらわれない新しい発想も求められるはず。従来のやりかたでは通用しないからこそ、大胆かつ柔軟にチャレンジできる若者の力が必要です。

COMMUNITY DESIGN

まちづくりから考える

施設を利用される方や一人暮らしの高齢者を、地域全体で支えていく取り組みも必要。介護は暮らしをつくること。暮らしはまちをつくること。介護業界が先頭に立ち、地域・医療・異業種とつながり、課題解決先進国へ。

※資料1：日本の値は、2015年までは「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」他国は、World Population Prospects: The 2017 Revision (United Nations)
※資料2：2015年までは総務省統計局「国勢調査」、2019年は総務省統計局「人口推計」による10月1日確定値、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」における出生中位推計。

介護の仕事研究室レポート 01

2040年の社会って、介護って、どうなっているのだろう？

2015年現在で、3軒に1軒が一人暮らし。

私は、市民団体の運営をお手伝いをするという仕事をかれこれ25年ほど務めています。現在では自治会、町内会をどうやって立て直すかという案件が半分以上。昭和から平成〜令和にかけて日本で大きく変わったのは、家族が小さくなったこと。昭和までは三世代同居が多かったので、介護や子育ては家族である程度できました。その後、核家族が主流になり、今は2015年に行われた国勢調査によると全世帯の35%が一人暮らし。つまり、3軒に1軒が一人暮らしということです。

福祉をみんなのものにしなければ。

沖縄県の自治会の例をご紹介したいと思います。真地団地は1981年にできた400世帯の住宅です。那覇市内の国際通りから最も離れており、バスがなくアクセスのよくない地域。そこで自治会として車を購入し、乗り合わせで買い物などをする最近でいうカーシェアリングを、1980年代からはじめていたそうです。住民同士で行う見守りをはじめ、一人暮らしのお年寄りの交流の場をつくろうと、「百金食堂」と銘打った昼食会を開くなど、地域で支え合う活動に取り組まれています。家族が小さくなったということは、福祉をみんなのものにしなければいけなくなったということ。住む人の命と暮らしを守るために生まれた、本来の自治会の意味があらためて大切になってきています。だからこそ、これからの福祉職は、施設の中からではなく、地域の中から求められていることへの対応が、ますます重要になります。

これまでとは質が違う高齢化。

2019年9月に28%を超えた日本は「超々高齢社会」です。そして、これからの高齢化は、これまでとは「質」が違います。2005年から2030年までの間に、65歳から74歳までの前期高齢者、いわばまちづくりの主役になる層が減っていく。これに対して23.4%が要介護という85歳以上の層が増え続けます。これが最大の問題です。そして、2040年には日本の人口の11人に1人が85歳以上になります。2015年から2035年までの間に85歳以上の人が倍に増えるため、介護需要も倍に。ところが2035年の段階で介護を担う人は15%しか増やせない。なぜなら、人口がものすごい勢いで減っているから。つまり、介護の生産性を20年間で85%引き上げないといけない。AIやロボットをあたりまえに使いこなせる職場にしていかないと、もう太刀打ちできません。

介護を先頭に、課題解決先進国へ。

これからの介護には、運営力やマネジメント力というものが今まで以上に強く求められると思います。効率よく、組織とサービスを持続できなきゃいけない。そのために、利用者さんに関する情報収集・分析・判断をご家族や地域と共有したり、たとえば一人暮らしのおじいちゃん・おばあちゃんを支えていく協働や、人材の育成に関してもいち早く取り組んでいく必要があるでしょう。日本人だけではなく、外国の人たちに働き続けてもらう職場づくりも必要です。これからは医療の伸びしろより、介護の伸びしろのが大きい。だからこそ、医療機関が福祉もやるのではなく、福祉・介護を経営している側が、医療機関も併設するという時代になると思う。世界に前例のない、最も早い超々高齢国に私たちはいます。課題解決先進国になることを、本当に期待しています。

［話し手］

IIHOE

人と組織と地球のための国際研究所

代表者　川北 秀人 氏

https://blog.canpan.info/iihoe

1964年大阪生まれ。87年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。広報や国際採用などを担当して91年退社。その後、国際青年交流NGOの日本代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。市民団体のマネジメントや、企業の社会責任（CSR）への取り組みを支援するとともに、NPO・市民団体と行政との協働の基盤づくりを進めている。また、地域自治組織の先進地である島根県雲南市の地域自主組織制度を、2006年の立ち上げ当初から支援するなかから「小規模多機能自治」の推進を提唱。同市などの呼びかけにより15年に設立された「小規模多機能自治推進ネットワーク会議」には250以上の自治体が参加し、農山漁村部だけでなく、今後は都心部でも急速に進む高齢化や人口減少に備えた住民自治や地域経営のあり方を、ともに学んでいる。

2020年の日本が「100人の村」だったら？

	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年
あなたの年齢	1	11	21	31	41
計	101	102	100	95	89
0–14歳	15	13	12	11	10
15–64歳	69	65	59	55	48
65歳以上	18	24	29	30	31
65–74歳	10	12	14	11	13
75歳以上	7	11	15	18	18
85歳以上	2	3	5	7	8

※写真はイメージです

介護の仕事研究室レポート 02

介護のリーダーは、日本のリーダーになる。

［話し手］
株式会社Blanket
代表取締役　秋本 可愛 氏

https://blan-ket.com

1990年生まれ。大学生の時介護現場でのアルバイトを通し「人生のおわりは必ずしも幸せではない」現状に課題意識を抱き、2013年（株）Join for Kaigo（現、（株）Blanket）設立。「全ての人が希望を語れる社会」を目指し介護・福祉事業者に特化した採用・育成支援事業や人的課題の解決を目指す「KAIGO HR」を運営。日本最大級の介護に志を持つ若者コミュニティ「KAIGO LEADERS」発起人。
2017年東京都福祉人材対策推進機構の専門部会委員就任。
第11回ロハスデザイン大賞2016ヒト部門準大賞受賞。
第10回若者力大賞受賞。Yahoo!ニュース公式コメンテーター。

介護を志す若者世代が活躍できる環境づくり。

株式会社Blanket代表の秋本可愛と申します。2013年に会社を立ち上げたんですが、大学卒業後にそのまま独立しているので、会社と私自身の社会人経験が同じ年数になります。介護や福祉事業所の採用ブランディングや、教育・研修を手がけています。また、これからの介護がより多くの人に関係する時代を見据えて、企業や学生向けにワークショップを企画・実施。そのほか、4,000人ほどの規模の、介護に志をもつ若者コミュニティ「KAIGO LEADERS」の運営もしていて、介護に関わる人を増やしたり、若い人たちが活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

はじまりは、認知症のフリーペーパー。

今でこそ「介護」をテーマにお話しさせていただいていますが、実は大学2年生までまったく介護に興味がありませんでした。福祉も専攻していません。ただ、大学2年生の頃から「このままやってても成長しないかも」という漠然とした意識をもちはじめ、インカレの起業サークルに入ったんです。そこにいたメンバーのおばあちゃんが認知症で、自分のことを忘れられた原体験を持っていました。そこで「認知症による悲しみを減らせるような取り組みがしたい」と、チームで「孫心」というフリーペーパーを発行。けれど、そもそも私自身が認知症のことを知らないので、この活動が効果的かどうかもよくわからない。そこではじめたのが、デイサービスのアルバイトでした。

若者の関心をもっと介護に！
大きな想いは、小さな飲み会からスタート。

初めての介護の現場でしたが、とても楽しかったです。いっぽうで課題もたくさんありました。スタッフの入れ替わりが激しいこと。ご家族さんの介護放棄。ときには虐待のようなケースもあり、保護させていただくことも。どうすれば介護の課題を解決できるんだろう。どうすればみんなが幸せになれるんだろう。そんなことを考え気づいたことは、「介護領域に対する若者の関心が低いこと」でした。もっと若い人たちが興味をもてたり、いっしょに活躍できる機会をつくっていきたい。そんな想いではじめたのが「介護系アクティブ学生交流会」。とってもダサい名前で、しかも最初はただ飲み会をしていただけでした（笑）それから「HEISEI KAIGO LEADERS」に発展し、現在の「KAIGO LEADERS」にいたります。

人に向き合う仲間がかっこいい。

介護は、見えづらくなった可能性にもう一度光をあてる仕事です。要介護になっても、その人が活躍できる環境をデザインすること。目の前の人との関わり方次第で、本当の想いや活躍できる可能性を引き出すことができる素晴らしい仕事です。また最近では、介護や福祉の現場から、誰もが居心地のいい地域が生まれていることを実感します。福祉施設の中にあるカフェに、カップルがランチに来る光景もよくあること。そして介護は、人生の終わりに寄り添える尊い仕事です。そんな人の人生に向き合う仲間たちを、私は心からかっこいいと思っています。まだまだこれから新しくつくっていくことや、変えていかなければならない介護の領域。自分たちのほしい社会をいっしょにつくっていける仲間と、出会えることを楽しみにしています。

介護の仕事研究室レポート 03

高齢者の旅をしたい想いに介護でこたえる

［話し手］
NPO法人しゃらく
代表理事　小倉 譲 氏

https://123kobe.com

1977年生まれ。高校卒業後、中国へ語学留学及びアジア放浪の旅をする。その後、立命館アジア太平洋大学マネジメント学部入学。在学中、ETICスタイル2003年ファイナル賞を受賞し、障がい者の衣服を作る事業を行うため、修行を目的として2004年アパレルメーカーに就職。2005年退職後、障がい者の衣服を作るプランをあきらめ、旅行会社設立のため準備に入る。2006年1月NPO法人しゃらくを設立し代表理事に就任。

あふれる笑顔と出会える、介護付き添い旅行。

ぼくたちNPO法人しゃらくは、配慮や介護が必要な方を対象にした、介護付き添い旅行のご提案をしています。NPO法人でありながら、やっていることは基本的には旅行会社とほぼ同じ。2006年に創業し、旅行業登録・タクシー運転者登録・社用車も購入し、2008年から第二創業というかたちで高齢者の旅行事業をはじめました。実績としては、日本はほぼ全国へ行っています。海外はヨーロッパや韓国、比較的近場のアジアなど。2020年10月現在で、のべ6650人の旅をコーディネートさせていただいています。この事業を通じて僕は、たくさんの本心の笑顔や驚きのあるいい顔と出会いました。お客さまに「ありがとう」と言われますが、そのお顔をみると「逆にこっちがありがとう」です。人生の大切なことを教えていただいているんだな、とよく思います。よく「覚悟がいるでしょう」と言われますが、目の前のお客さまに喜んでもらえることを考えてるだけ。自分がやりたいからやっているんだと、つくづく思いますね。

日帰り旅行をリハビリ代わりに。

介護付き添い旅行のほかに、日帰り旅行をリハビリ代わりにする「旅リハ倶楽部」というサービスも提供しています。なぜはじめたのかというと、7〜8年ほど前に神戸市北区と西区を除く7区での孤独死が、600人を超えたという記事を新聞でみたのがきっかけ。それが許せなくてね。誰にも看取られることなく、たった一人で寂しく亡くなっていく。そんな社会でいいんですか、と。一人暮らしをしていて体が動かなくなった人たちが、なんの楽しみもなく日々を過ごす。そんな社会は「悪」だと思ったので、タダ同然の価格で「旅リハ倶楽部」をはじめたというわけです。心を元気にしてほしい。心が元気になって来月も「旅リハ行くで〜」というふうに、体も元気になってもらいたい。これまでで175回くらい催行し、のべ人数1000名様ほど参加していただいています。

旅でじいちゃん、どんどん元気に！

そもそもなぜNPO法人しゃらくを立ちあげたかというと、ある出来事がきっかけになっています。僕は昔からおじいちゃん子で、毎年いっしょに旅行へ行ってたんです。そのじいちゃんが肺気腫、膀胱癌、認知症、糖尿病を患い老老介護に。当時、僕はサラリーマンをしてたんですけど、老老介護を見かねて金曜日夜から日曜日夜まで僕が介護をしていました。あるとき僕が「じいちゃんまた旅行行こう」と言ったら、「じいちゃん死ぬから行けへんねん」って言うわけですよ。「そんなこと言わんと」と、じいちゃんの好きな徳島県鳴門市にある人丸神社へ行こうと、旅行会社に問い合わせをしたところすべて断られたんです。さらに親戚中からの猛反対も。「じいちゃんに何かあったらどないすんの！？」と、はっきり言ってやかましい。だからもう、内緒で旅行行きました（笑）するとどうでしょう。人丸神社の前に来たとき、ほとんど歩けなかったじいちゃんが、むくむくと立ち上がり階段を上がっていくではありませんか。境内には神主さんがいて、神主さんと30分も立ち話をしたんですよ！？これはやるべき。まだ世の中にない事業なら、自分でつくってしまおうと創業を決意しました。NPO法人しゃらくのキャッチフレーズである「旅をあきらめない」や「旅は最高のリハビリ」という言葉は、まさにこのエピソードからきています。

介護の仕事研究室レポート 04

医療から介護へ
その人らしさを支える介護の魅力

［話し手］
NPO法人 おはな
理事長　森田 浩史 氏

https://uji-ohana.jp

京都府出身。2000年より理学療法士として、社会福祉法人宇治病院で10年間勤務。2010年からは社会福祉法人くらしのハーモニーで勤務しながら、デイサービスに興味をもち、NPO法人おはなを設立。2012年5月に通いの家おはな（デイサービス）を開設し8年半が経過。2021年3月より小規模多機能＆カフェを新たにオープン。

自分らしく元気になれるデイサービスを。

NPO法人おはなの森田と申します。京都の宇治市で、一軒家を使ってデイサービスを運営しています。民家を改修し、通いの家「おはな」と名付け、1日11人までという小さな規模で自立支援を行っています。「おはな」とは、ハワイの言葉で「家族」という意味。家族のようなお付き合いができればということと、海外の言葉なのに日本的な響きが気に入って名付けました。自分らしさを出してもらうためなら、どんなことをしてもいい。そんな想いをスタッフに共有し、自分でできることはやっていただくことで、元気になれるデイサービスをめざしています。僕自身は、京都府亀岡市出身。滋賀県の学校で学び、理学療法士になりました。病院のリハビリテーション課で10年間勤めた後、京都の「くらしのハーモニー」へ入職。地域の中で関わり支援するうちに、これからもっと歳をとった時、自分たちで困りごとを解決できる地域にしたいと思い、今の法人を立ち上げたという流れです。

高齢だからこそ、大きな可能性を秘めている。

リハビリテーション課で勤めていた時に感じたのは、「元の生活をするために治療するのが病院なのに、病院そのものが生活できる環境になっていない」という違和感。地域は、あくまで生活する場所。だからこそ、おはなの家では、ぼくたちスタッフと利用者さんが、同じ生活者として過ごすことを大切にしています。「協同調理」といっていっしょにごはんをつくったり、「リハビリ浴槽」は、こだわりのヒノキ風呂にしました。デイサービスと聞くと、お風呂に入り、レクリエーションをするというイメージがあると思います。でも僕は、そうじゃないデイサービスがあってもいいんじゃないかと思ったんです。おはなの家では、たとえば料理が好きなら料理をつくる。編み物が得意なら編み物をしてもらうし、絵が得意な方に法人のカレンダーをつくってもらったりもしています。高齢の方だからこそ、いろんな経験をされています。つまり、いろんな可能性を秘めているんですよね。また、民家の良さを活かしてリラックスできる木目調や居心地のいい家づくりをすることで、気持ちよく過ごせる関係づくりを大切にしています。

介護の仕事は、家族の最適解を見つける宝探し。

おはなの家は、60軒くらいある町の中にあります。デイサービスのオープン時には、地域のみなさんに説明会をさせていただきました。最初は厳しいことも言われましたが、今では認めていただいたのか、事業所として町内会に入れてもらっています。たとえば、夏の地蔵盆では、うちの事業所を開放してアニメ映画大会を開催したことも。町内の子どもたちが映画を観ている間に、大人たちは外でお酒飲んでるといった光景ですね。そんなふうに、地域の方々との関係づくりも、事業所としてできてきている状況です。現在は、法人の新たなチャレンジとして、小規模多機能居宅介護という泊まりもできる施設「小多機の家はなえみ」と、「みんなのカフェくりぐり」を併設した場所をオープンしました。地域には課題がたくさんあります。そんな山積みの課題を解決する方法や、今の地域に足りないものを考えるのが好きなんだと思います。いろんな家族のかたちに関われるところが、介護の仕事のおもしろさと難しさ。僕は介護の仕事のことを、正解のない問いに、ご本人さん・ご家族・働くみんなで対話し、最適解を見つけていく宝探しのように感じています。

若手職員の
現場の声
V

VOICE

利用者さまは人生の先輩。学ぶことが多いです。

社会福祉法人くらしのハーモニー　2009年入職　介護職　荒川 翔太さん

認知症の利用者さまでも、顔は覚えていてくれることがあるんですね。「よう来てくれはったねえ」と迎えてくれて。ぼくが少し疲れた顔のときには肩を揉んでくれたり。そんなことされると、嬉しくて泣きそうになります。やはり人生の先輩。勉強させられます。

現場を知るから、困りごとの本質が知れる。

社会福祉法人くらしのハーモニー　2009年入職　介護職　湊 博匡さん

相談職をめざすなら、介護の現場経験があったほうがいいかも。ぼくはそう思います。なぜなら、現場で困っている当事者と関わらないと、いざ相談にこられたときに対応の方法がイメージできないからです。いろんな経験を積む中で、相談員の素養が養われます。

人を思いやるかけがえのない仕事。

社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋　2019年　介護職　島野 莉奈さん

「誰でもできそう」「大変そう」というイメージから、最初は親にも反対された介護の仕事。でも実際に働いてみて思うのは、とても尊い仕事だということです。高度な技術が身につくとともに、目の前の人を思いやれるかけがえのない毎日です。

良いものをつくり、地域の中で生きがいを。

社会福祉法人京都福祉サービス協会　2018年入職　ケアワーカー　天野 杏奈さん

「施設の高齢者がつくった商品」ではなく、「誰がみても欲しくなるブランド」というアプローチで社会とのつながりを生み出すこと。そうすることで、利用者さまの生きがい・介護のイメージチェンジ・地域の活力づくりに貢献しています。

施設選びのポイントは、親が入っても安心できるか。

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会　2016年入職　介護職　美濃部 友花さん

私が就職先を選ぶ基準にしたことは、自分の親がここの施設に入って安心できるかどうか、でした。施設の雰囲気や職員さんの対応などから、いいイメージができるかという視点で見学へ行くのもおすすめ。自分が直感的に「いいな」と思えることは重要です。

介護の誤解

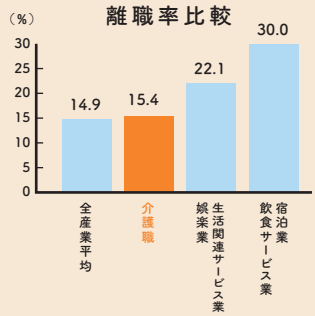
地域や家庭で、ますますあたりまえになる介護。けれど、介護の仕事に対しては「大変そう」とか「偉いね」とか。イメージが更新されないまま、本当のことを伝えられいないように思うんです。正しく介護の仕事を紐解けば、もっとポジティブで魅力的な選択肢になるはず。ぜひ知ってほしい介護の誤解をピックアップしました。

GOKAI 01

離職率が高い？

産業全体の平均離職率が14.9%のなか、介護職の離職率は15.4%。宿泊業・サービス業の30%や生活関連サービス業・娯楽業の22.1%より低く、比較しても決して高いとは言えません。

※参考資料1

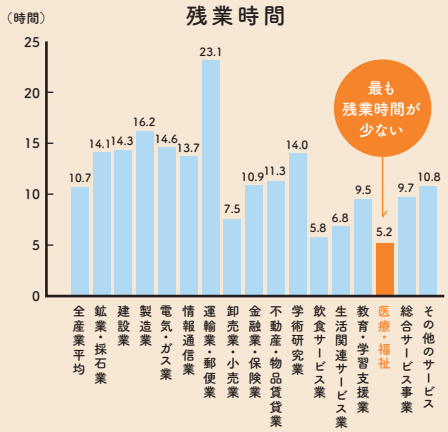


GOKAI 02

残業が多い？

月の残業時間は飲食サービス業が16.6時間、教育・学習支援業が13.5時間。医療・福祉は7.1時間と他業界に比べて最も少なく、介護業界で働く人の5割強は残業をしていないことがわかっています。

※参考資料2



GOKAI 03

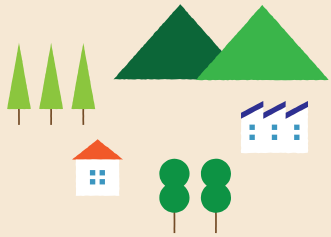
キャリアアップできる？

資格を取得することで、給料アップはもちろん管理職などのキャリアアップも目指せます。ますます成長が予想されるうえに、景気に左右されにくい安定した業界でもあります。

GOKAI 04

介護＝高齢者のお世話？

生活の介助だけをするイメージがもたれていますが、本当の目的はその人らしい生活を実現すること。そのために、生きやすい街や地域づくりまで視野を広げて考えます。



※参考資料1 介護労働安定センター「平成30年度 介護労働実態調査結果について」
※参考資料2 厚生労働省「毎月勤労統計調査 平成30年度分結果確報 月間実労働時間及び出勤日数」

Q & A

介護職Q&A

Q 介護の仕事は体力勝負？

A 介護＝体力仕事ではありません。負担を軽減するために正しい体の使い方を学ぶ研修があったり、チームメンバーで助け合ったり。福祉機器を使用して利用者さまと職員の体を守る「ノーリフティングケア」という実践もあります。コミュニケーション力や観察力、柔軟な発想など自分の得意を生かせる＝介護の仕事だと思います。

Q 「この仕事、やっててよかった！」と思うのはどんな時？

A 「気をつけてな〜」とやさしい言葉をかけてくれたり、「明日は来るんか〜？」と待っていてくれる。そんな何気ないやりとりに、この仕事の尊さを感じます。手を握ったり、いっしょに作業した時に笑顔を見せてくれるなど、表情の変化が見れるのも大きなやりがいです。「ありがとう」のひと言が、とても嬉しい仕事ですね。

Q 「死」と向き合って、なにを感じた？

A ターミナル（終末期）の利用者さまの誕生日。お子さんたちが部屋に来てお祝いをしてくれていると、「そろそろサザエさんが始まる時間よ。暗くなる前に帰りなさい」と。その言葉を最期に亡くなられました。小学校の教師をされていた方で、最後まで子どもたちを想われて。そのやさしさに、「その人らしい最期」を感じました。

Q 介護職はエッセンシャルワーカー!?

A 「エッセンシャルワーカー」とは、医療や電気、ガスなどのライフラインに従事する人。介護職ももれなくそうです。なぜなら、緊急事態宣言のような状況においても、介護職員が全員同時にステイホームしてしまったら、サポートが必要な人の生活も止まってしまうから。いかなる時も、自分を待つ人がいる重要な仕事です。

Q 医療と介護の違いって？

A たとえば医療のゴールは、患者さまの「具合の悪いところを治すこと」。一方、介護は「その人の具合の悪さを受け入れたうえで、その人の生活をつくること」だと思うんです。そして、最期の看取りにまで関われることも、介護の仕事の大きな特権。ともに過ごした方との最期のお別れは、寂しくも、あたたかい尊い経験になると思います。

Q これからの介護職に求められる能力は？

A 効率よくサービスを持続するための、施設の運営力やマネジメント力が強く求めれると思います。利用者さまに関する情報収集・分析・判断から、家族や地域と協働していく機動力も。人の力だけでなく、AIを導入するなど柔軟性と先進性を併せもち、福祉・介護が医療機関を牽引していく経営力も備えていく必要があります。

Q 福祉系学部の出身ではないのですが、介護の仕事はできますか？

A できます。もちろん介護の専門的な技術は大切ですが、それは現場で身についていくもの。資格も自分のがんばり次第で取得できるはず。それより何よりいちばん重要なことは、人が生きる権利をどこまで深く理解し、大切にできるかということ。人の人生にまっすぐ向き合う姿勢があれば、大丈夫です。

協力法人紹介

社会福祉法人くらしのハーモニー

最期まで地域で「楽しく生きる」をつくる福祉

くらしのハーモニーは、高齢者、障がい者、子どもたちなど、誰もが住み慣れた地域で、お互いに学び合い、困った時には助け合い、ともに暮らせる社会・地域をつくるために、①介護保険事業②社会福祉事業③住宅事業を行っています。

社会福祉法人くらしのハーモニー　法人情報
〒612-8495 京都府京都市伏見区久我京都市伏見区久我森の宮町3-6　TEL:075-935-7100
http://www.kurashino-harmony.or.jp

Web site URL

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会

介護のイメージを変える「働きやすさ」と「やりがい」

現在12の高齢者福祉事業を展開中。地域とのつながりや自由で自律した運営を目指して、現場の様々な規制をとっぱらい、多くの権限を職員に移すことで「個別ケア」の実現と「働きやすく」「やりがい」のある職場づくりを目指しています。町内の４つの施設を拠点とし地域住民と共に積極的に地域福祉活動を展開しています。

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会　法人情報
〒619-0243 京都府相楽郡精華町南稲八妻笛竹41　TEL:0774-94-4125
http://kami-home.jp

Web site URL

社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋

学びあえるってオモシロイ

「誰もが安心して住み慣れた地域に暮らし続けられる社会」の実現に向け、高齢者福祉事業を中心に保育事業や地域貢献事業を展開しています。それぞれの法人が地域の中で福祉の中心的役割を担うと同時に、グループとして、研修、人材育成を合同で行うなど、社会福祉法人グループ化という日本初の試みにチャレンジしています。

社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋　法人情報
〒603-8231 京都府京都市北区紫野大徳寺町49-3　TEL:075-366-8025
https://ligarefukushi.com

Web site URL

社会福祉法人京都福祉サービス協会

京都のまちを笑顔にする

京都福祉サービス協会は、高齢者福祉（介護保険の訪問介護・デイサービス・ショートステイ・特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護など）、障害者福祉（障害者総合支援の居宅介護など）、児童福祉（児童館）と幅広く総合的な福祉サービスを展開している社会福祉法人です。

社会福祉法人京都福祉サービス協会　法人情報
〒604-8872 京都府京都市中京区壬生御所ノ内町39番5　TEL:075-406-6334
https://www.kyoto-fukushi.org

Web site URL

さいごに

epilogue

いかがでしたか？

従来のイメージとは違う、介護の魅力を感じていただけたでしょうか。

介護の仕事は、目の前の人の暮らしをつくること。

暮らしをつくるということは、まちのありかたを考えること。

一人の幸せを、地域全体で支えるまちづくりの中心に、

10年後のあなたがいることを心から願っています。

介護で働く魅力発信BOOK
「暮らしをつくる」ー福祉がこれからのまちづくりの中心にー
［発行］一般社団法人FACE to FUKUSHI
［お問い合わせ］

アナタとワタシのフクシのアシタ
FACE to FUKUSHI

〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田1-3-1大阪駅前第1ビル4階106号室
TEL:06-4799-0108　mail:fukushigoto@f2f.or.jp
https://fukushigoto.f2f.or.jp

本冊子は厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信事業等（ターゲット別魅力情報発信事業（若年層向け））」として作成しています。

アナタとワタシのフクシのアシタ
FACE to FUKUSHI